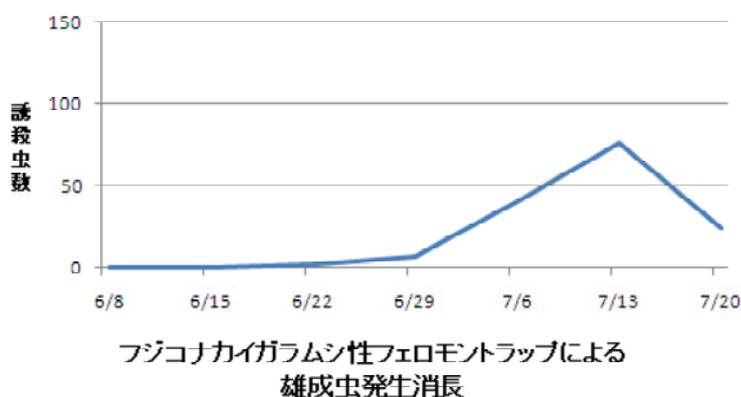


カキのフジコナカイガラムシの防除適期の予測（第二世代）

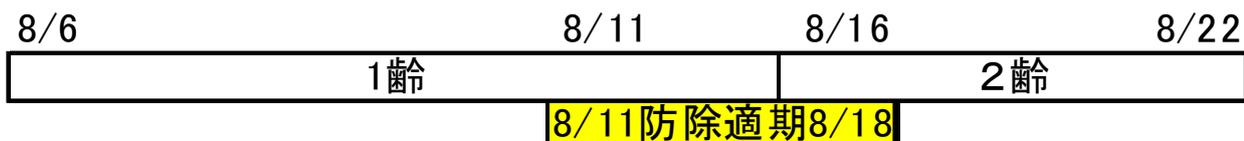
予想防除適期：8月11日～8月18日（8月3日計算）

島根県病害虫防除所

予測の根拠：フェロモントラップを出雲市多久町のカキ園に4月22日から設置しフジコナカイガラムシの越冬世代雄成虫を調査した。その結果、本年の第一世代成虫の発生ピークは7月14日となった。



誘殺ピークである7月14日を起点とし平均気温（7月28日までは2009年の気温、それ以後は平年値）を用いて次世代（第2世代）の発生時期を予測すると1齢期8月6日～8月15日、2齢期8月16日～8月22日となり、防除適期は8月11日～8月18日と推定された。



参考：フジコナカイガラムシは幼虫で越冬し、年間に3世代を経過すると言われており、防除適期である幼虫発生期は第一世代幼虫が6月中下旬、第2世代幼虫が8月中旬、第三世代幼虫が9月中旬と言われている。近年、フジコナカイガラムシの性フェロモンが明らかになり、圃場における発生状況をより正確に把握できるようになった。そこで、今回このデータとフジコナカイガラムシの発育データを使って今後の発生を予測し、それに基づいて最適な防除時期を示した。今後も雄成虫の誘殺ピークにより発生予測を行う予定である。

なお、この予測は一部山間地（赤名）では1週間以上遅くなりますのでご注意ください。